



大峯山における植物種多様性と哺乳類相



キーワード 大峯山/ 環境条件/ 森林更新/ 生物多様性/

どのような研究をなぜ行っているか

近年生物多様性が主流化されつつあり、その保全や社会経済に組み込むことの重要性が認識されつつあります。生物種や生物多様性の保全のためには、どこにどのような生物多様性が分布しているかという基礎的研究が必要です。たとえば奈良県では、低地の奈良盆地は古代から開拓されつくされて森林はほとんどありませんし、標高およそ800 m未満の低山は針葉樹の植林地によって占められています。一方で奈良県南部に位置する大峯山では(図1)、古くから信仰によって原生的な森林が守られてきました。基礎的な森林生態学を研究するだけでなく奈良県での生物多様性保全などを考えるうえでうってつけの地域といえます。

そこでわたしは大峯山では特に、様々な標高帯において森林更新と植物種多様性、哺乳類相、環境条件の基礎情報を収集し、それらの関係を研究しています。具体的には、1) 大峯山には二ホンジカが棲息するので二ホンジカ圧力下における森林更新の状況、2) 植物種多様性と標高などの環境経度との関係、3) 標高や森林タイプと哺乳類相の関係を明らかにする野外調査をしています(図2)。

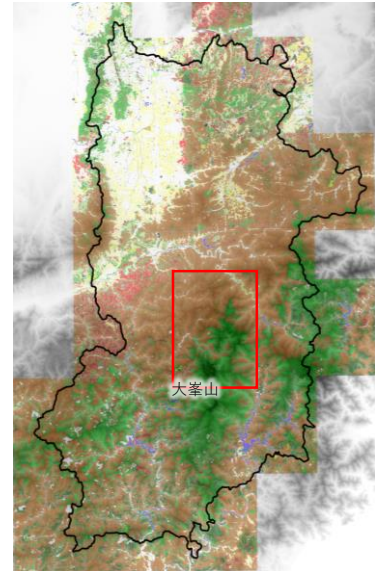


図1. 奈良県における大峯山の調査地(赤枠)。緑色は自然植生または代償植生、茶色は植林地、黄色は耕作地を示す(環境省による自然環境保全基礎調査より描く)。



図2. シラビソの実生(左)、オオヤマレンゲの実生(中)、二ホンジカの群れ(右)。

研究成果をどのように活用し、どのような貢献ができるか

大峯山は、世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」や「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」に登録されています。本研究を通して大峯山で得た植物種多様性や哺乳類相などの基礎的な生態学的情報は、大峯山の登録地域だけでなく近隣の森林における生物多様性の保全戦略策定や地域貢献に資する事ができると考えています。

これまでの連携研究や社会貢献活動の実績

- 日本MAB計画支援委員会 委員 (2014年～)
- 大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク関連のシンポジウム・出前授業等 (2014年～2016年)
- 五條市史編纂委員会 委員 (2019年度～)
- 奈良植物研究会 役員 (2021年度～)

